

インフォメイトしよ

▶ 通院治療センターのご紹介 ～がんに対する免疫治療とゲノム医療～

2024.Jun

Vol. **43**

▷ Topics: 市民公開講座を開催しました／放射線治療装置(リニアック)の更新に伴う、放射線治療の休止について／人間ドックのご紹介・・・P06

- 〈病院の理念〉
一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します
- 〈病院の方針〉
- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
 - 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
 - 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
 - 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
 - 5 信頼される優れた医療人を育成します
 - 6 健全な病院経営に努めます



[栄養科より]

食品表示について! 食物アレルギー

食物アレルギーは、特定の食物を食べたり、触れたりした後にアレルギー反応があらわれる疾患です。原因となる食物として鶏卵、牛乳、小麦の割合が多く、最近は木の実類による食物アレルギーが増加しています。

食品表示は容器包装された加工食品・添加物について「特定原材料」として、えび・かに・くるみ・小麦・そば・卵・乳・落花生(ピーナッツ)の8品目の表示を義務付けています。

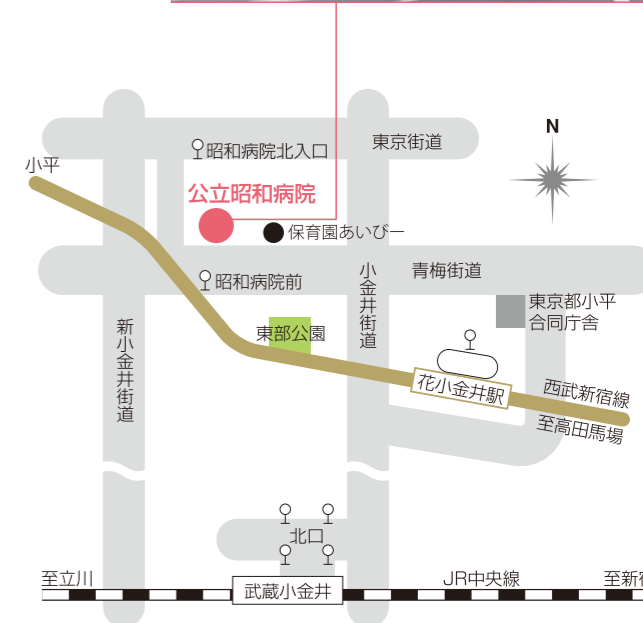
その他「特定原材料に準ずるもの」として、アーモンド・あわび・いか・いくら・オレンジ・カシューナッツ・キウイフルーツ・牛肉・ごま・さけ・さば・大豆・鶏肉・バナナ・豚肉・マカダミアナッツ・もも・やまいも・りんご・ゼラチンの20品目の表示が推奨されています。

一方、飲食店や店頭販売については食物アレルギーの情報提供は義務付けられていません。誤食防止のため情報提供を行うよう、自主的な取組が促されています。



■ 交通案内

- 西武新宿線「花小金井」駅 北口下車
- 立川バス『寺51』昭和病院行き乗車8分「昭和病院」下車
立川バス『寺56』大沼団地行き乗車8分「昭和病院前」下車
- タクシー乗車約7分
- JR中央線「武蔵小金井」駅 北口下車
- 西武バス『武21』錦城高校経由東久留米駅西口行き乗車20分
「昭和病院北入口」下車900m
- タクシー乗車約15分
- JR中央線「国分寺」駅 北口下車
- 立川バス『寺51』昭和病院行き乗車30分「昭和病院」下車
立川バス『寺56』大沼団地行き乗車30分「昭和病院前」下車
- タクシー乗車約20分
- 西武池袋線「東久留米」駅 西口下車
- 西武バス『武21』西団地經由武蔵小金井駅行き乗車20分
「昭和病院北入口」下車900m
- タクシー乗車約18分
- 西武新宿線「小平」駅
- 北口下車小平市コミュニティタクシー(ぶるべー号)
大沼ルート乗車15分「昭和病院」にて下車
- 南口下車西武バス『武17』昭和病院經由
武蔵小金井駅行き乗車10分「昭和病院」下車
- 南口下車タクシー乗車約9分
- 都営バス『梅70』青梅車庫前～花小金井駅北口「昭和病院前」下車



公立昭和病院

【発行】公立昭和病院
【編集】広報委員会

〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1 www.kouritu-showa.jp
Tel:042-461-0052(予約専用ダイヤル:042-461-4896) Fax:042-464-7912



通院治療センターのご紹介

公立昭和病院は、がん診療連携拠点病院として地域医療機関と連携してがん診療を行っています。通院治療センターは、患者さんが日常生活を送りながら、外来通院で抗がん剤治療が受けられるように設置された部門です。昨年度は、医師や薬剤師、看護師と連携し、5,000人を超える患者さんに治療を行いました。



薬物治療について

○通院治療センターでのがんに対する薬物治療
 がんに対する薬物治療は通院治療センターや入院病棟で行っています。以前より使われている抗がん剤に加え、分子標的薬(※1)という治療ターゲットを定めた治療薬の投与、免疫治療やホルモン治療などを行い、併せて治療方法の管理も行っています。

○がんに対する治療方法

がんに対する治療は、薬物治療に加え、放射線治療や手術が行われます。放射線治療は放射線科、手術は外科等で行われ、緊密な連携をとりながら治療方針を決定します。治療は薬物治療の後に手術が行われる事もありますし、その逆もあります。放射線治療と薬物治療を組み合わせる方法もあり、発生した部位によって治療方針が異なります。

※1 分子標的薬とは、病気の原因となる体内の悪さをする特定の分子をターゲットとし、その働きを抑えることによって病気を治療するために開発された薬です。

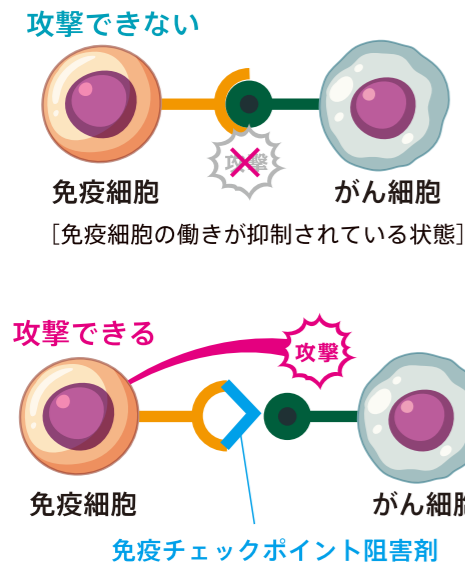
○免疫治療と効果

薬物療法の1つである免疫治療(免疫チェックポイント阻害剤)が平成26年から使用できるようになりました。当院で使われているがん種は、肺がんや頭頸部がんなどの多くのがんで使用されています(グラフ①)。免疫チェックポイント阻害剤の種類も増え、現在では一次治療から開始される場合は60%以上になりました。また、抗がん剤との併用も7割近くまで増えています(グラフ②)。

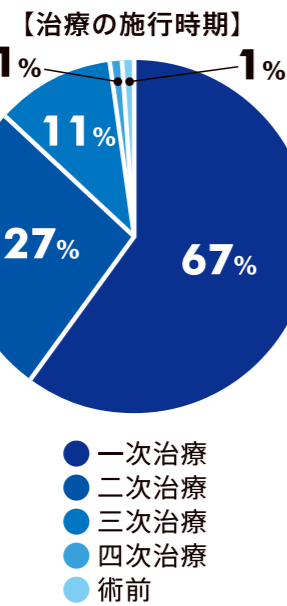
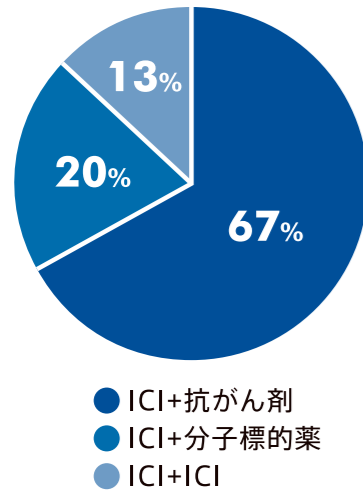
免疫チェックポイント阻害剤を使うようになり、3年、5年と経過フォローがなされた結果、長期にがんが抑制され、日常生活を送っておられる患者さんが一定数いらっしゃる事がわかっています(グラフ③)。

※2 免疫チェックポイント阻害剤とは、免疫細胞の働きを抑制する「免疫チェックポイント」を阻害することで、免疫を活性化させる薬剤です。

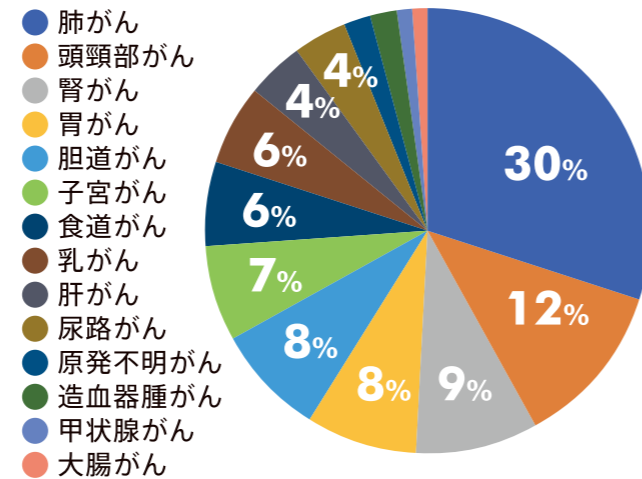
免疫チェックポイント阻害剤の働き



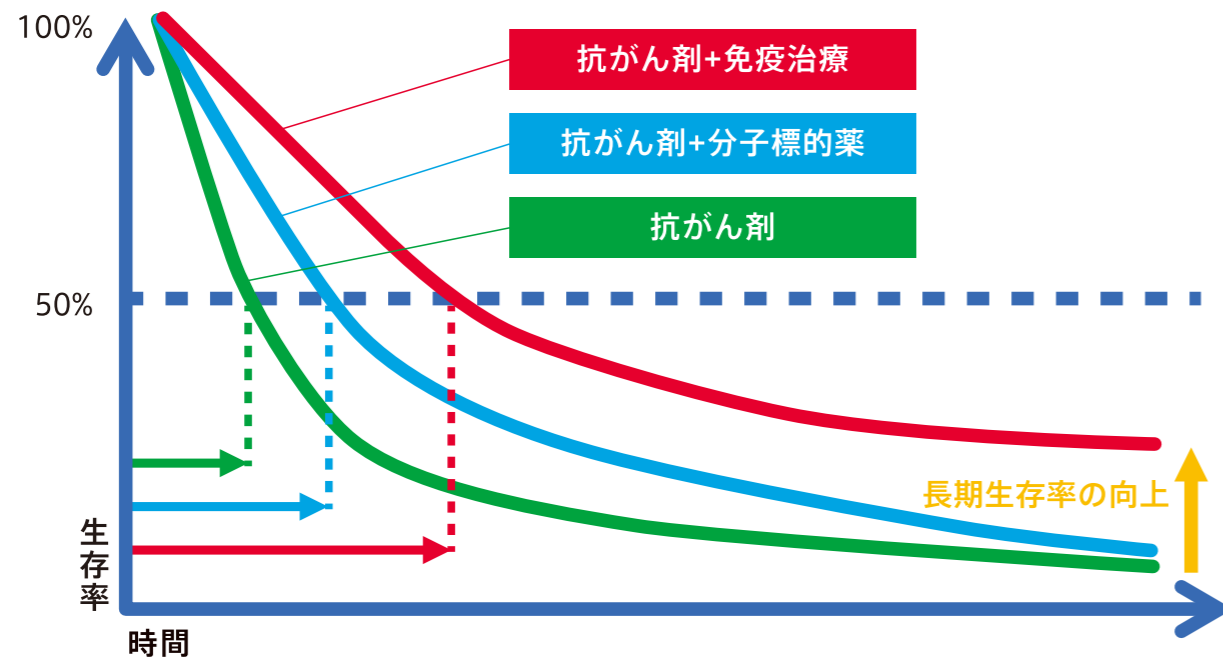
グラフ② 【免疫治療に併用する薬剤の種類】



グラフ① 【当院で免疫治療を行っているがん種の割合】



グラフ③ 【免疫治療による生存率の経過】



【写真左から】

乳腺・内分泌外科部長 金内 一
 Kanauchi Hajime
 腫瘍内科担当部長 大岡 真也
 Ooka Shinya



がんゲノム医療^{※3}について

○ドライバー遺伝子

がん細胞は細胞の中にある遺伝子変異が増え、蓄積されてくることによって発生すると考えられています。遺伝子変異は日常的に起きており、健康な人の遺伝子変異は修復される機能が働いています。が、修復されず遺伝子変異が増え、細胞が増殖する事によって、人の命を脅かすようになります。

特に命に関わってくる増殖をおこす細胞は悪性細胞であり、それを起こしているドライバー(運転手)遺伝子がいくつも報告されています。ドライバーではない、働きが不明なパッセンジャー(お客さん)遺伝子もたくさんありますので、ドライバー遺伝子を見分けて探していく検査が令和元年から保険適用でできるようになっています。

○ドライバー遺伝子への治療

ドライバー遺伝子の働きを止めて細胞増殖が止まることによって、がんを治療する方法が研究されています。ドライバー遺伝子に対する治療がたくさん研究途中にありますので、標準治療(がん)と診断されたらすべき治療(が)終了する可能性がある場合に検査を受けることができます。また、ドライバー遺伝子に関係なく、正常細胞とがん細胞を見極めて、がん細胞のみを攻撃する治療も最近増えてきています。腫瘍内科では、ドライバー遺伝子を見つけ、それに対する治療(おもに臨床試験)を提案する事も行っています。

○がんゲノム診断後の治療

治療可能な遺伝子変異が見つかった後、多くの方は免疫治療など保険適用となっている治療が推奨されること多いです。新薬の臨床試験も数多く行われており、遺伝子変異に合った臨床試験として治療を受けて頂くことが推奨される事もあります。是非、治療を受けて頂きたいのですが、現在ドライバー遺伝子が見つかる可能性はおよそ50%で、実際に治療まで到達できる方は検査を受けた方のおよそ10%です(がん種によって異なります)。

実際に治療を受けておられる方が少ないのは、ドライバー遺伝子に合った治療を受けようと思っても臨床試験が終了、治療を受ける病院が遠い、病状が進行したなどの理由により治療を受けられない可能性もあるからです。がんゲノム検査を適切な時期に行い、治療選択をより良く見極めていくことが求められています。

※3「ゲノム」とは、遺伝子(gene)と染色体(chromosome)を合成した言葉で、細胞のDNAの遺伝情報全般をいいます。ゲノム医療は、悪い変化を起こしている遺伝子を遺伝子パネル検査により探し、遺伝子に対する効果的な薬で治療を行う医療です。

ゲノム情報に基づく薬物療法

がん遺伝子パネル検査
主にがんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ、検査結果をもとに治療できることがあります。



○多職種との連携

これらの業務内容を医師や看護師と情報共有し、治療中の患者さんの生活の質の向上に取り組んでいます。また、調剤薬局との連携強化にも取り組んでおり、治療内容や副作用の状況についてレジメンシールや治療情報提供書を用いて情報を共有しています。

○副作用について

患者さんから直接いただく質問の中で多いのが嘔吐に対する不安です。現在吐き気予防のお薬は改良されており、持続的に嘔吐をするようなことはかなり少なくなっています。吐き気に関しては個人差が大きいいため、症状が全く起こらない方もいれば、長期間持続する方もいらっしゃいます。また、吐き気に関してはさまざまな要素が考えられ、時期や症状によって使用する薬剤も異なりますので、パンフレットやノートなどに記録を残していただくことが重要です。治療に関わるお薬に関するご質問がございましたらお気軽にお声掛けください。

薬剤師の役割

通院治療センターでは9名の薬剤師を配置し、医師・看護師・栄養士・その他のメディカルスタッフと協働して、安全に質の高い抗がん剤治療(以下化学療法)の提供を目指しています。化学療法に関わる通院治療センターの薬剤師の役割をご紹介します。

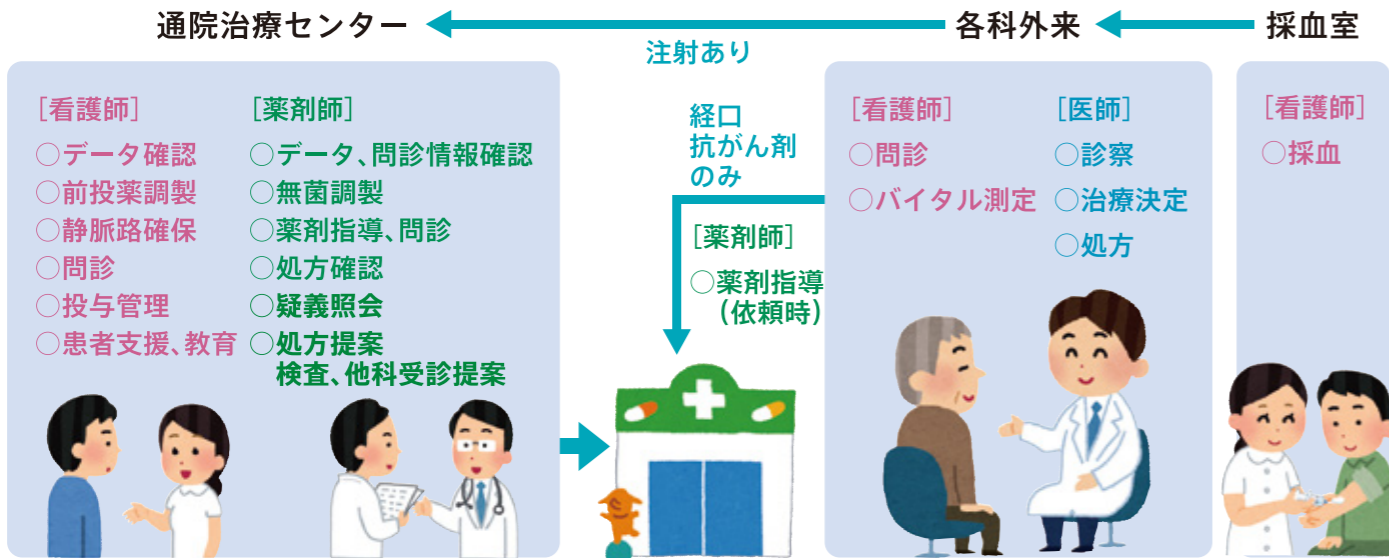
○治療開始前

薬剤部では事前に治療内容の選択についての確認や提案を行い、投与計画(レジメン)で決められた抗がん剤の投与量、投与間隔、投与時間、お薬の相性(相互作用)などについて問題がないかの確認を行います。

○治療当日

化学療法当日には注射剤の混注を行っています(写真①)。
患者さんにはがんに関連する資格を持った薬剤師が化学療法の意義や投与期間、抗がん剤や副作用予防のお薬の使用法や服用に関する注意、副作用の早期発見や管理方法などについての説明を行っています(写真②)。また、治療後の治療効果や自覚症状の変化、検査値、副作用の状況についての確認を行い、抗がん剤の減量や変更、副作用を軽減するお薬などの処方医師に提案しています。

外来化学療法 [1日の流れ]



調剤薬局への情報提供

レジメンシール、治療情報提供書で情報共有

調剤薬局に病院で実施された治療や患者さんへの説明内容に関する情報が伝わるように連携を強化。



看護師の役割

当院の通院治療センターにはリクライニングチェアが19床設置され、テレビが備え付けられています。患者さんがテレビ鑑賞や読書などを行いながら治療できるようになっています。少しでもリラックスして治療が受けられるように環境を整えています。また、患者さんの治療や副作用対策など、医師・薬剤師・栄養士等と共に連携をとってチーム医療を行っています。各専門家と連携を取ること、専門性の高い医療の提供を行える体制を整えています。腫瘍内科医、薬剤師、がん化学療法認定看護師等が在籍しており、専門的な知識を生かした医療の提供を行っています。



【通院治療センター】

看護師は、治療中の患者さんに日常生活を送らせるうえでお困りになっていることや不安なこと、副作用症状等の問診を行っています。患者さんが自宅で困らないように相談にのり、対応策を患者さんと共に考え、サポートできる体制を整えています。外来化学療法を受けられている患者さんは、自宅に戻れば社会的役割があります。治療を行いながらもその人らしく日常生活がおくれるように、個々の患者さんにあった支援を目指しています。



そのための医師や薬剤師、管理栄養士との橋渡し役も看護師は担っています。通学、就労、家庭での生活が、少しでも快適に維持できるように、患者さんの思いに寄り添い、日々よりよい看護の提供に努めています。



【点滴セット準備の様子】



【薬剤ダブルチェックの様子】

市民公開講座を開催しました

当院では、地域の皆様にごんをはじめとした様々な病気についての知識を深め、役立てていただけたら、定期的に市民公開講座を開催しています。去る6月8日(土)、第37回市民公開講座を東久留米市の「成美教育文化会館(グリーンホール)」において、東久留米市・東久留米市医師会のご協力をいただき開催いたしました。当日は、富田竜馬市長より開会のごあいさつをいただき、221名の市民の方にお越しいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

後日、講演内容を収録した動画を、当院ホームページの市民公開講座のページに掲載いたします。ぜひ、ご視聴ください。

講演内容

「頭頸部がんについて」
くびのど・口の中のがん

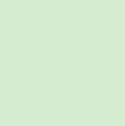


耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長
吉田昌史

「心不全は突然やってくる。…そして!？」

循環器内科部長
田中茂博

動画視聴はこちら↓



循環器内科部長
田中茂博

次回の開催予定(入場無料・事前申込み不要)
日時 令和6年10月12日(土) 14時開場
場所 東大和市民会館 ハミングホール
たくさんの方のご参加をお待ちしております。

放射線治療装置の更新に伴う、放射線治療の休止について

この度当院では、放射線治療装置(リニアック)の更新を行います。新しい装置は、定位放射線治療(※1)や強度変調放射線治療(※2)などの高精度放射線治療を、従来よりも短時間かつ高精度に行うことができます。新装置の稼働は令和7年2月頃を予定しています。

旧装置の撤去や新装置の設置工事、立ち上げには時間がかかるため、その間の放射線治療は休止となります。令和6年6月下旬頃から放射線治療の予約を順次制限させていただきます。当院で放射線治療が行えない期間に放射線治療が必要となられる患者さんに対しては、近隣の医療機関へご紹介させていただくこととなります。大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただけますようお願い申し上げます。



【稼働予定の新装置】

※1 小さい範囲に対して多方向から集中して照射する放射線治療で、ピンポイント照射ともよばれます。
※2 腫瘍の形状に合わせて放射線をあてる形や強さを変えて行う放射線治療で、従来よりも副作用を少なくすることができます。

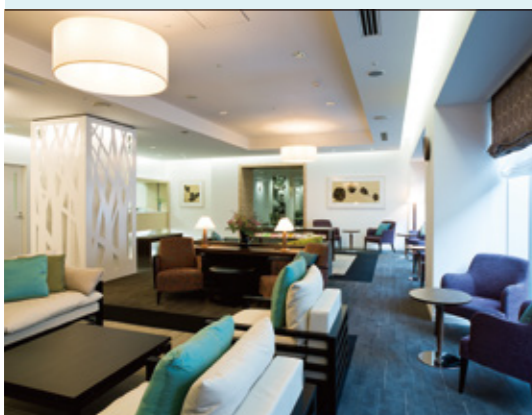
人間ドックのご紹介

当院の予防・健診センターは(公)日本人間ドック学会の「人間ドック健診施設機能評価」の認定を受けている健診施設です。落ち着いた空間で、専門の医師による質の高い健診を提供しております。

基本料金	
1日ドック [受診日] 毎週月曜～金曜日 ※オプション可	50,600円(税込)
半日ドック [受診日] 毎週月曜～金曜日 午後	38,500円(税込)
脳ドック [受診日] 第1・4木曜、第2・3水曜	82,500円(税込)
土曜日1日ドック [受診日] 5月・8月・1月	61,600円(税込)
土曜日半日ドック [受診日] 5月・8月・1月	40,700円(税込)
CTによる大腸検査 [受診日] 毎週水曜 午後	31,900円(税込)

構成市住民対象プラン	
構成市住民半日ドックプラン (オプション不可)	38,500円(税込) → 26,950円(税込)
構成市住民対象CTによる大腸検査	31,900円(税込) → 22,330円(税込)
1月～5月までの期間限定構成市住民1日ドックプラン (オプション不可)	54,780円(税込) → 46,200円(税込)

構成市: 小金井市 小平市 東村山市 東久留米市 清瀬市 東大和市 西東京市
(※構成市住民料金は、ご加入の健康保険組合等によっては、対象外となります。)



1日ドックコースをお申し込みの方のみ、オプション検査が利用できます。
内視鏡検査をご希望の方は、経口(口から)と経鼻(鼻から)をお選びいただくことができます(事前予約)。
※MCI(軽度認知障害)リスク検査を始めました。

予約電話 042-466-1800
(予防・健診センター)

予約受付時間 平日9時～16時

※詳細はホームページでも確認いただけます。

